

桂林と鵜飼

岐阜県博物館友の会 副会長 兼松 克司



およそ1300年の昔、美濃国の栄叡(ようえい)・普照(ふしょう)という二人の僧が勅命により遣唐留学僧となつて唐に派遣され、10年間もの求法の結果、揚州の大明寺で戒律の講義をされていた鑑真和尚と巡り会うことができた。二人は鑑真和尚に日本に戒律を伝えて下さるように懇請したところ、鑑真和尚自身も渡日することを決断されました。それから鑑真和尚の来日は苦難を極めて、12年間の歳月と5回の渡航挫折の末、6度目によ

うやく奈良の都に到着されました。その時のいきさつを記した「東征伝(とうせいでん)」の中で、5回目日本に向け出航するも暴風雨に逢い、海南島に漂着、揚州を目指して北上途中に桂林に1年近く滞在したと記してあります。桂林滞在后栄叡は病に倒れ、志半ばで遷化し、鑑真和尚も眼疾を得て失明されました。

桂林は唐の時代からその美しさは知られていました。桂林を流れる漓江(りきこう)では鵜飼が行われています。中国の漁法は「はなち鵜飼」と呼ばれ、竹で出来た筏で灯りはカンテラで、灯りに寄つてきた鰓や鮒などの川魚を捕

まえた鵜に竿を差し出すと鵜が飛び乗るので、それを引き寄せて魚を吐き出させるという方法です。私は22年前に網膜剥離で手術をし、その後1年間は視力が思うように回復しなくて失明するのかと悩んでいました。散歩中に関市を流れる津保川で野鳥のカワセミの美しさに感動して、こんな近くに素晴らしい鳥がいることを知り撮影したく写真をはじめました。カメラに写る被写体の持つ深さや意義に気付く楽しさを感じ、カメラに導かれて日本はもとより中国、アメリカ、ベトナム、ネパール、カンボジアと「風土とそこに暮らす人々」をテーマに写真撮っています。

桂林へは2011年と2012年に2回水墨画の世界と鑑真和尚、栄叡大師を偲び撮影してきました。写真は「漓江に生きる」という画題で鵜匠を撮影した作品です。

カメラのおかげでいろいろな世界を体験することができ、いろいろな人と巡り合うことができ、心を豊かにしてくれま

す。今年は久しぶりに桂林の撮影を計画しておりましたが、新型コロナウイルス

ス感染症拡大で断念しました。まだ、これから数年は無理のようですが、生かされていることに感謝して「爽やかで、味わいのある写真」に挑戦していきたいと思



きたいと思

「光秀が駆けぬけた戦国の岐阜」紹介

岐阜県博物館 学芸部 安藤 均

織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三天下人が統一権力を形成する過程で、美濃・飛騨の地は重要な役割を果たしました。ほぼ10年にわたり岐阜に本拠地をおいた信長、美濃を基盤に台頭の糸口をつかんだ秀吉、関ヶ原合戦で政権の帰趨を決した家康、彼らにとってこの地は画期となる場所でした。

そしてそこには多くの武将たちの姿がありました。彼らは三天下人や、下剋上の象徴である斎藤道三などに従い、時に翻弄されながらも戦国の乱世を生き延びるため躍動しました。戦国の世に大きな衝撃を与えた明智光秀もその1人でした。信長の腹心として美濃金山城を拠点として中濃・東濃を治めた森氏。信長の美濃侵攻に内応したのち秀吉に仕え、西濃から郡上へ、さらに豊後白杵へと激動の中を駆け巡った稲葉氏。武田氏と織田氏のはざまで生き残りの道を模索した遠山氏。そして戦国の飛騨で激しい主導権争いを見せた江馬氏・三木氏・金森氏。当時の美濃・飛騨は時代の変化の中心にあったと言えるでしょう。本特別展では、戦国から江戸時代初めごろの美濃・飛騨ゆかりの武将や城館、それらに関連する文書・甲冑などの史料や出土品などを展示し、美濃・飛騨の地と人が中世から近世への時代の変化に果たした役割を探ります。

まずは戦国を概観する史料を2点紹介します。江戸時代に岡山藩主池田光政が作成した「古判手鑑」。これには、戦国時代の武将の書状やその一部分である花押が貼られています。その中には美濃ゆかりの武将のものも数多く見られます。続いて国宝の太刀 銘 康次。信長は室町幕府將軍足利義昭を追放しましたが、義昭は將軍復帰を目論み、この太刀を薩摩島津氏に贈りました。戦国の激戦の裏に幕府権力が残っていたことを窺わせてくれます。

次に美濃ゆかりの武将の史料を紹介します。信長に仕えた森可成とその息子たちは相次いで戦死し、唯一残ったのが末子忠政でした。忠政は秀吉に仕えて活躍しましたが、本展では

文禄の役における名護屋城造営の際に着用したとされる鎧地塗革製二枚胴具足を展示します。そして稲葉氏からは、秀吉から稲葉一鉄に出された書状を、東濃の苗木遠山氏からは、武田氏に仕えていた頃に、信玄から苗木城主の遠山直廉に出された書状を展示します。

続いて飛騨の戦国にまつわる史料を紹介します。飛騨市古川町の寿楽寺には平安時代に書写された大般若経があり、そこには後に数多くの奥書が残されました。その中でも巻第六百には天正10年(1582)の三木氏の侵攻やその後の經典の遷移が記されています。

さらに戦国の文化として古今伝授と茶陶(美濃桃山陶)を取り上げます。『古今和歌集』の読み方や注釈を伝える古今伝授は郡上を治めた東常縁から始まり、公家や彼らと交流を深めた武将たちに影響を与えました。一方、美濃桃山陶は信長の保護により瀬戸から陶工が移住したことに始まり、茶の湯の流行を受けて黄瀬戸・瀬戸黒・志野などが生産されました。その中大萱(可児市)・元屋敷(土岐市)で出土した陶片を展示します。

最後に戦国を描いた当館所蔵の錦絵を取り上げます。江戸後期～明治期に作られた多色刷りの版画で、多くの武将が『太閤記』などのエピソードとともに描かれています。

本特別展では、今注目の戦国の岐阜を様々な側面から取り上げます。ご観覧いただいた皆様にさらに知見を深めていただければ幸いです。



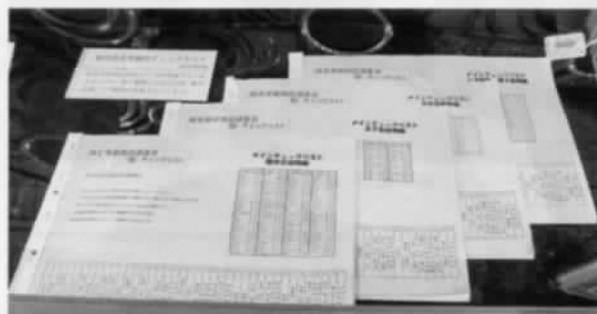
▲古判手鑑(岡山・林原美術館蔵)

「岐阜大学と岐阜県植物誌」

岐阜県博物館 学芸部 土屋 寿美

岐阜県は、西に白山(2,702m)、能郷白山(1,617m)を有する両白山地、東に奥穂高岳(3,190m)を有する飛騨山脈と御嶽山(3,067m)らに囲まれています。また南北で見ると、海拔0mから3,000mを超えるところまであり、標高差が大きいのが特徴です。北アルプスや白山など高山や広大な濃尾平野を有し、その間を木曽川、長良川、掛斐川などが流れています。また、森林面積は約80%もあります。この自然豊かな岐阜県で、全国に誇れるほどの多種多様な植物を見ることができ、岐阜県植物誌によって明らかとなりました。

岐阜県植物誌は、およそ20年の歳月を費やし、2019年夏に発刊されました。植物誌に記録されている維管束植物(2,359種)は、県内に分布しているシダ植物と種子植物をすべて網羅しています。また、種ごとの検索表、全種の分布図、代表的な植物の植物画及び調査に基づいた岐阜県の特徴的な植物の紹介があり、全国に誇ることでできる質の高い県植物誌になっています。岐阜県植物誌は、岐阜大学の高橋弘名誉教授が会長をつとめる岐阜県植物誌調査会が調査研究を進め、まとめられたものです。また、植物誌の分布情報の多くは、岐阜県博物館の収蔵庫と岐阜大学教育学部郷土博物館植物標本庫に証拠標本として保管されているものから得られています。



▲岐阜県植物誌の作成に使用された植物チェックリスト(当館蔵)

日本の中心に位置する岐阜県には、日本海側に分布域を広げる日本海要素植物(キヌガサソウ、スミレサイシンなど)、太平洋側に分布域を広げる太平洋要素植物(アカヤシオ、テバコモミジガサなど)、周伊勢湾地域に分布が集中している東海丘陵要素の植物(シデ

コブシ、ハナノキなど)、高い標高にしか生育していない高山植物(クルマユリ、トウヤクリンドウなど)のように、多種多様な植物が生育しています。また、岐阜県が分布の西限になる植物(ヤワタソウ、ヤマクワガタなど)や、岐阜県が分布の東限になる植物(イブキトリカブト、ミヤコアオイなど)、岐阜県固有の植物(ミノシライトソウ、キヨミトリカブトなど)のように貴重な植物もみられます。なかには、多数の岐阜に因んだ名の付く植物(ミノコバイモ、ヒダキセルアザミなど)もあります。

今回の移動展では、こうした岐阜県の特徴的な植物を紹介するとともに、植物標本、レプリカ、複製線画も多数展示しています。岐阜県でみることでできるネコノメソウの仲間のレプリカも展示しており、実際の生育の様子や細かい花のつくりを知ることができるようになっています。加えて、新種と認められた論文に記載されたタイプ標本も紹介されています。本移動展を通して、岐阜の植物の特徴を知り、豊かな自然があふれる清流の国ぎふを感じていただければと思います。



▲トウノウネコノメの複製線画(画:二村延夫)・標本(岐阜大学蔵)・レプリカ(当館蔵)



▲岐阜県博物館移動展の様子(会場:岐阜大学図書館)

連携企画展示の紹介

「美濃武士のゆくえ 一戦国から江戸へ」

岐阜県博物館 学芸部 近藤 大典

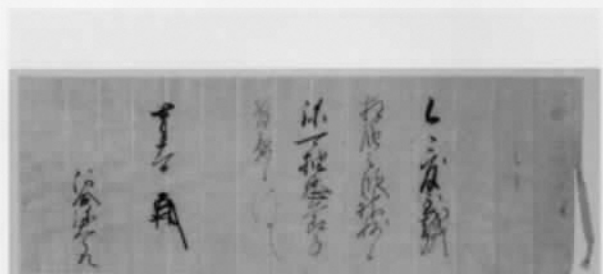
近年、特定のテーマで展示を行う特別展・企画展とは別に、市町村などを行う連携企画展示も毎年いくつか実施しています。特に地元関市とは、平成29年度以来、毎年、複数のテーマで開催してきました。

ここで紹介するのは、9月24日(木)から11月8日(日)まで、企画展示室で開催する、岐阜県歴史資料館(以下、歴史資料館と略称。)との連携企画展示です。

歴史資料館は、郷土の歴史や民俗、行政に関する資料を収集・整理・保存し、展示などしています。収集資料の中には織田信長文書や天領飛騨の状況を伝える飛騨郡代高山陣屋文書など貴重なものが多数あります。

今回は、その貴重な資料の中から土岐氏、徳山氏、赤座氏、佐藤氏に関わる史料が紹介されます。特別展「光秀が駆けぬけた戦国の岐阜」とともに、岐阜の戦国時代に浸ってみてはいかがでしょうか。

なお、企画展示室ではあわせて関市との連携企画展示「考古学資料からみた関市の中世 一重竹遺跡を中心に」も開催しています。併せて御覧ください。



▲土岐頼芸書状(岐阜県歴史資料館蔵 東京大学史料編纂所撮影)

蛾はお好きですか? (1)

“蛾ブーム” 到来?

岐阜県博物館 学芸部 説田 健一

最近、手に入れた蛾の図鑑の序文に、『蛾類に興味を持つ人達、特に若者や女性が増えてきた』とあり、少し驚きました。にわかに信じがたい記述ですが、蛾の幼虫を可愛く撮影した写真集や斑紋の美しい蛾ばかり集めた図鑑など、蛾に関する出版物が増えているのは確かです。

さて、当館では、サポーターのみなさんに昆虫標本の整理を手伝っていただいています。特に蛾類については、毎年、三千近くの標本が登録され、整理が着実に進んでいます。私はもともと甲虫を専門としていたので、蛾に愛着はありませんが、このところの“蛾ブーム”を感じるため、標本箱に整然と並んだ蛾の標本をじっくり眺めてみました。残念ながら、観察眼がないため、シャクガや小型のヤガなど、どれも同じに見えます。当館は、蛾の標本を多く所蔵しているわけではありませんが、それでも、種類の多さに驚きます。蛾は蝶とともに鱗翅目に属しています。日本で見られる蝶は約三百種ですが、蛾は約六千種もいます。県内の調査記録を見ても、一か所の調査地で、約千種の蛾が記録されています。多様な生物の営みが実感でき、収集欲を刺激する圧倒的な種類の多さが“蛾ブーム”の根底にあるように思います。



▲アオバハガタヨトウ(ヤガ科)

マイミュージアムギャラリー 第4回展示

「増田孝コレクション 自筆書状の魅力」
へのお誘い

岐阜県博物館 学芸部 金子 好孝

令和2年度の第4回目は、岐阜県博物館資料収集委員を2年務められた増田孝さんのコレクション展「自筆書状の魅力」を開催します。

増田孝さんは、古筆研究の第一人者であり、親しみやすい語りでTV番組でもおなじみの人気鑑定士です。今回は、当館開催の特別展「光秀が駆けぬけた戦国の岐阜」にあわせて、増田さんが古筆を研究する中で収集した自筆書状約60点を展示します。前期は戦国武将の書状を中心に、後期は能書として知られる天皇や茶人、女性などの書状の展示を通して、増田さんがそれぞれの書状を収集した思いや書状から読み解くことができる人物像、そして自筆書状の魅力を紹介します。

【会期】

前期：9月19日(土)～10月18日(日)

後期：10月24日(土)～11月23日(月・祝)

【関連講演会】

博物館学芸講座「自筆書状の魅力」

講師 増田 孝 氏(愛知東邦大学 客員教授)

日時 11月14日(土) 13:30～15:00

場所 マイ・ミュージアム棟3階けんぱくホール

●要予約・定員65名

(申し込み開始は開催日の1か月前から)



▲伊達政宗筆聞香記録(前期展示)

会員の声

「博物館友の会員」のメリット

岐阜県博物館 友の会理事 薫田 龍興

・年2回の「探訪の旅」

旅行会社企画の観光旅行とは一味異なる歴史探訪。バスガイドさんさえ「勉強になる」というほど詳細な解説付き。充実した現地ガイドによる解説とゆとりある日程も安心。春は日帰り国内探訪の旅、秋は3泊4日程度の国内外の探訪の旅。これが魅力で、私は県博「友の会」会員になりました。

まだまだ、「友の会」のメリットは多くあります。

・入館料(常設展・特別展とも)無料

・「特別展図録」一割引購入、さらに一部の既刊図録は半額購入可能。売店(ミュージアムショップ)のグッズの一割引購入(一部除外商品あり)

・会報 年3回配付・・・特別展示資料の解説、会員の活動・意見紹介など

・その他、県博の展示・催し物の案内の配付

【大人向け】県博主催の講演会、聴講料無料(要事前申込)年間17回程度

【親子・子供向け】県博・友の会の共催事業への参加。お正月恒例の特別行事「七草がゆを食べよう」や「わくわく体験(第2、第4日曜、もの作り体験・化石取り出し体験など)」

積極的に参加すれば、自然・歴史・文化などの最新の情報が手に入りますので、年間2000円(家族ペア会員は3000円)の会費はたいへんお値打ちだと思います。

ただ、今年度は例のコロナの影響でほとんどの事業が中止または延期になっているのが残念です。

岐阜県博物館からのお知らせ

○ツイッターでの情報の発信と活用

世の中がインターネットによる情報にあふれ、スマートフォンが普及し、多くの人が比較的容易に様々な情報を入手できるようになってきています。友の会会員の皆様もインターネットを通じて、博物館のホームページなどから、最新の状況などをご覧いただいている方も多いと思います。

博物館からの情報発信として、メールアドレスを登録していただいている方への毎月のメールによる催し物案内と共に、ツイッターによる情報発信も行っています。ご存知でしたでしょうか。

ツイッターは、SNS（ソーシャルネットワークサービス）の代表的なものとして、現在は認知度も高く、情報伝達のスピードも速いと言われています。また、最近では、テレビなどでもツイッターを通じて視聴者の意見を取り入れるなど、双方向性もあります。

このツイッターのアカウントを設定して、自分が情報発信（ツイート）しなくても、他の様々なアカウントを登録（フォロー）することで、リアルタイムな情報を得ることができます。例えば、新聞社のアカウントをフォローしておけば、最新のニュースを入手出来たり、お気に入りの芸能人のアカウントをフォローしていれば、わざわざホームページを見に行かなくても、リアルタイムで情報を得られたりします。また、その情報に対して反応（リプライ）することもできます。

そんなツイッターの博物館のアカウントをフォローいただくと、これまで以上に博物館の「今」の情報を容易に入手いただけると思います。

最近では便利なものが増えました。ツイッターのアプリがインストールされて



岐阜県博物館 @gfmuseum 2020/08/12
ミュージアムショップの新製品『和紙製本キット』を作りました。
博物館実習生につくってもらったセルフガイド付きで、夏休みの宿題や御朱帳・お城印帳にぴったり。
お盆休みにぎりぎり間に合ったかな。#岐阜県博物館



いて、ご自分のアカウントが設定されていれば、このQRコードをスマホで読み込ませることで、簡単に博物館のアカウントをフォローできる画面に飛んでいくことができます。実はこのQRコードは、前号の友の会会報にも掲載されています。チャレンジされた方もいらっしゃるのではないかと思います。

ツイッターの世界に興味のある方は、この機会にぜひ、ご自身のアカウント取得と博物館のアカウントをフォローすることへの挑戦は、いかがでしょうか。

友の会事務局からのお知らせ

★令和2年度後期友の会の主な活動について

- 会議 ・10月8日（木）秋季理事会
・3月13日（土）会長・副会長会議
・各種委員会
- 特別行事「七草がゆを食べよう」は、博物館と協議の結果、新型コロナウイルス感染拡大防止のため今年度は開催を見送ることとしました。

★探訪の旅について

- 宿泊探訪「復元された鶴丸城御樓門と神話の里高千穂を訪ねる旅」令和3年2月2日（火）～2月5日（金）

★図録の刊行について

- ・「光秀が駆けぬけた戦国の岐阜」9月
- ・「みんなの恐竜学」12月

★博物館売店（ミュージアムショップ）について

当会で運営しているショップですが、図録・図書をはじめ、子供から大人まで楽しめるグッズを取扱中。刃物を中心とした関市の、和紙を中心とした美濃市の産品も。水晶・メノウ等の石や三葉虫等の化石、また、恐竜グッズも各種あります。9月からの特別展にあわせ、武将グッズも揃えています。展覧会観覧のあとにぜひお立ち寄りください。

★会員数の更なる拡大について

友の会活性化のため、会員の拡大を願っています。今号では会のメリットについての寄稿もいただきました。会員のみならずご自身も会員特典をご活用いただくとともに、お知り合いの方にご加入のお誘いをいただければありがたいです。